

ケアマネ通信

No. 41

鳥栖地区介護支援専門員協議会

事業所内での回覧をお願いします！

発行：平成 29年 3月16日
事務局：東町わたや薬局内
担当： 松雪幹一 木下里美
TEL：0942-81-3039
FAX：0942-81-3053
E-Mail：hwataya@vip.saganet.ne.jp
URL：http://www.tosukaigo.com/
【協力：鳥栖地区広域市町村圏組合介護保険課】



1. 会長挨拶・研修会報告

鳥栖地区介護支援専門員協議会 会長 梅木康一

皆様 こんにちは

寒さも徐々に緩み、一雨ごとに春めいて参りました。

会員の皆さまにおかれましては、年度末の業務、書類整理等でお忙しい毎日を送られていることと思います。

今年度、鳥栖地区介護支援専門員協議会では佐賀県より地域医療介護総合確保基金事業の補助を受け、3つの研修会を計画し、先日無事最後の研修会を終了することが出来ました。本研修会は「地域包括ケアシステム」を大きなテーマとし、1回目は佐賀県医師会理事である山津善保先生に「地域包括ケアシステムの概要と医療との連携」を、2回目はケアタウン総合研究所の高室成幸先生に「地域包括ケアシステムの構築と多職種連携のあり方」を、3回目はさわやか福祉財団の阿部かおり先生に「地域包括ケアシステムの現状とケアマネジャーや地域の役割」をそれぞれご講義いただきました。補助金を活用した研修会で

もあり、2回目はケアマネジャーだけに限らず、サービス事業所や施設職員にも呼びかけ、3回目は地域の民生委員・児童委員の方にご案内を行い、沢山の方にご参加いただきました。1回目の研修に関しては既にケアマネ通信にて研修報告をさせて頂いておりますので、今回は2回目と3回目の研修を簡単に報告させていただきます。

第2回目の研修は平成28年12月7日にサンメッセ鳥栖にて開催し、90名ほどの参加がありました。先に述べましたとおり、ケアマネジャーだけではなく、サービス事業所の職員や施設職員にも参加をして頂き、地域包括ケアシステムにおける多職種連携について学びました。本人を軸として社会資源も利用しつつどのように支援していくのか、ケアマネジャーだけの視点にとらわれず、これまでの生活歴や本人の趣味、その人らしさを理解した上で支えていくことが重要である。極端な例ではありますが、Aさんを見て、この人は赤が似合う、赤い服が好きであろうと準備する。しかし、当の本人からすれば赤色は派手で嫌いと思っている。こちらの思いだけで支援計画を作成していないだろうか……。その人らしさを理解した上で支えていくというケアマネジャーの原点でもある部分が、支援に慣れ、忙しくなるにつれ薄れてきていることに気づきました。看取りに関する多職種連携についても話をされ、最後は自分自身に対するチャレンジシートを作成し研修会を終了されました。高室先生はケアマネの応援団という立ち位置をご自分で言われますが、本当に元気がでる研修会でした。

第3回目は平成29年2月13日に鳥栖市民文化会館研修室にて開催し、地域の民生委員・児童委員の方にも参加して頂き、約120名の方が受講されました。さわやか福祉財団の阿部先生をお迎えし、地域でどう支えていくのか、ケアマネや民生委員・児童委員の役割は何かという内容をお話頂きました。先生がもともと関西の方というのもあり、関西弁で時折ご自分の事例も交えて、おもしろおかしく説明をされました。2回目の研修でも説明があったのですが、本人を知るという事が大変重要であり、生活歴をしっかり抑えることが大事であると何度もお話されました。表面的な支援では介入できなくても、本人にとってのスイッチを見つけることで介入が可能となる、地域で支えていく方法は様々であり、社会資源も含めた活用方法を見出す必要がある。訪問介護における生活援助は「老計10号」を基本としているが、高齢者が困っている事の一つに「ペットの世話」が上がっている。現在の高齢者のニーズが多様化していることに気付かされ、総合支援事業がスタートする中でケアマネジャーは高齢者のニーズをどうプランニングしていくか。確かに私が支援した方の中にも独居で犬を飼われていた方がおられ、施設入所にあたり誰が世話を رفتていくのかでとても苦勞した事を思い返しました。介護保険だけにとらわれることなく、専門職でなくても出来ることを見出しながら地域全体で支えていく。しいては地域包括ケアシステムの構築につながるとの説明を受けました。民生委員・児童委員の方も大変参考になった、今後の活動の参考にしたいとのご意見も頂きました。

今年度の研修事業に関しては終了致しましたが、次年度も同基金を活用した研修会を計画したいと考えております。沢山の方に参加して頂き、今後の支援業務の参考になればと思います。簡単ではございますが、本通信の挨拶及び研修会報告とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2. アンケート結果 (1)

居宅介護支援事業所 なかばる紀水苑 古賀 美奈子

研修日時：平成28年12月7日(水) 18:30～21:00

場 所：サンメッセ 鳥栖

講 演：「地域包括ケアシステムにおける多職種連携及び役割について」

講 師：ケアタウン総合研究所 代表 高室成幸先生

参加者：87名

アンケート回収：77名 (回収率 88%)

【アンケート回答より】

1. 参加状況

① 性別 男性…22名 女性…53名

② 基礎資格 介護福祉士：49名 社会福祉士：15名 看護師：12名
歯科衛生士：2名 薬剤師：0名 その他：4名
経験年数 1年未満：4名 1～2年未満：6名 2～3年未満：0名
3～5年未満：8名 5～6年未満：6名 6～7年未満：5名
7～10年未満：12名 10年以上：27名

③ 勤務している事業所別

居宅：37名 施設：23名 その他：13名

2. 本日の研修内容は如何でしたか。

① 満足：59名 ②満足とはいえない：0名 ③どちらともいえない：13名

3. 研修時間は如何でしたか。

① ちょうど良い：59名 ②もっと聞きたかった：15名 ③長かった：3名
④どちらでもない：0名

4. 研修の日時については如何でしたか。

- ① 良い：59名 ②悪い：9名 ③どちらでもない：16名
- ・夕方から夜にかけての研修は、家事、育児、翌日の業務などに差し支える。
 - ・昼間が参加しやすいです。
 - ・先生も内容もとっても良かったのですが…夜、都合つける事が難しいので、できればせめて20時終わり位まででお願いしたいです。
 - ・勤務時間外だったので、仕事のことを考えなくて済んだ。

5. 今後、取り上げてほしい研修テーマ・講師や講演者の希望

- ・機会があれば、また高室先生の講演を聞きたい。

- ・生活保護、成年後見制度
- ・総合事業について
- ・終末期への対応
- ・施設のケアプランについて
- ・介護屋 みらい 宮崎氏
- ・具体的な事例を紹介して、イメージのわかりやすい研修が良い
- ・元気になれる研修会をお願いします
- ・サービス担当者会議の実演研修
- ・ケアプランチェックについて（実際にやっている業者さんや講師）

6. 本日の研修内容についての感想や意見

- ・今の自分のやり方等を見直すことができた。反省する点もあり、考えさせられた。CADLの理解を心がけようと思う。
ケアマネだけでなく、施設職員、事業所職員にも聞かせたかった。（参加するように声かけをすれば良かった）
- ・とても共感できる内容でした。多くの事業所や施設の方々にも聞いてほしかったです。なぜなら、ケアマネだけではできない事なので。
- ・アセスメントやプラン作りに少しでも役立てられるよう CADL を活用したいです。
- ・介護5の方や3～4になられる方が多いなかで、自立支援のプランをどのように役立てれば良いか？と悩んでいましたが、今日「CADL」を課題して取り上げることができれば、要介護5の方でも自立支援のプランがたてられるのではないだろうかと考えさせられました。
- ・気づきや振り返りが、たくさんあった。有意義な研修でした。
- ・大変参考になり、今後の利用者様に関わり、接し方が変わると思います。
- ・今回2回目でしたが、毎回楽しく学ばせて頂きました。
- ・多職種連携の意味がわかりました。型にはまらないケアマネジメントの話が聞けて楽しく受講できました。
- ・とても勉強になる研修で、明日からも頑張ろうと思いました。
- ・考え方や視点の向け方など、学ぶ所が多くありました。
- ・自分は、今まで生活を成り立たせることばかり考えていた。その人の人生（元気な頃）を知り、生きることばかりに目をむけず、生きる意欲がでるような目標をもてるようなケアマネになりたいと思いました。
- ・視点が違い発見がたくさんありました。
- ・講話が興味深く時間が経つのが早かった。
- ・「CADL」について改めて考えさせられました。また、機会があれば研修を受けたいです。本日の講師の方のお話をまた違ったテーマで聞きたいです。
- ・鳥栖の介護スタッフが一度に集まり、同じ気持ちになれたのではないのでしょうか？大変素晴らしい講演でした。
- ・長時間だと思ったが、研修後はそう感じなかった。内容もケアマネにとっては、とても充実していたと思います。

- ・すごくわかりやすかったです。
 - ・リスクマネジメントを考えておくことは、自分に対してもリスクを分散、守ることにつながり大事なことだと思いました。
 - ・パワフルで楽しい研修でした。
- 今後書籍販売ができる会場を検討下さい。
今回の研修会場がサンメッセの何階か記入されていませんでした。



3. アンケート結果(2)

居宅介護支援事業所ほほえみ 赤川ひふみ
今村病院居宅介護支援事業所 柳瀬 重美

研修日時：平成29年2月13日（月）13時30分～16時00分
場 所：鳥栖市民文化会館3階研修室
講 演：「地域包括ケアシステムの現状とケアマネジャーや地域の役割」
～ケア会議と協議体の違いについて～
講 師：公益財団法人さわやか福祉財団 九州1ブロック
阿部 かおり先生

◆ケアマネアンケート結果

ケアマネ参加者：89名
アンケート回収：69名（回収率77%）

1、参加状況

- ① 性別 男性・・・16名 女性・・・69名
- ② 年齢 20代（0名）30代（23名）40代（24名）50代（13名）
60代（9名）

- ③ 基礎資格 介護福祉士：38名 看護師：15名 社会福祉士：12名
 薬剤師：0名 栄養士：0名 歯科衛生士：1名
 その他資格：3名
- ④ 経験年数 1年未満：4名 1～2年未満：5名 2～3年未満：5名
 3～5年未満：12名 5～6年未満：4名 6～7年未満：2名
 7～10年未満：14名 10年以上：23名
- ⑤ 勤務している事業所種別 居宅：41 施設：12名
 病院など：0 その他：16

2、 本日の研修内容は如何でしたか

- ① 満足（61名）②満足とは言えない（1名）③どちらとも言えない（7名）
 ② を選ばれた方について
 ・財団の紹介が少しわかりづらかった。

3、 研修時間は如何でしたか？

- ① ちょうど良い（56名） ②もっと聞きたかった（4名） ③長かった（8名）
 どちらでもない（1名）

4、 研修の日時については如何でしたか？

- ① ちょうど良い（59名） ②悪い（1名） ③どちらでもない（9名）

5、 今後の研修で取り上げて欲しい研修テーマ・講師や講演者の希望

- ・地域のケアマネが触れ合える・顔の見える研修及び、地域の活性化に繋がるような研修（テーマを決めて、グループワークなど）
- ・総合事業の話
- ・ケアプランについて
- ・主治医との連携の方法・必要性・主治医の意見書や助言をいかにプランに繁栄させるか学びたい

6、 本日の研修内容についての感想や意見

- ・研修内容がとてもわかりやすく、楽しい研修でした。
- ・地域支援事業について、判りやすく学べた。今後のプランに役立たせたい。
- ・前向きな気持ちになる研修内容で、いろいろ学べました。
- ・笑顔の大切さを、改めて学びました。「人間関係は笑顔から」をぜひ実践したいと思いました。「笑顔は笑顔をコピーする」
- ・人生の生き方について、学べたような研修でした。
- ・介護に直接関わる職員さんにも先生の話聞いて欲しいとおもいました。
- ・自立支援会議・「本人と家族以外で話しても」と言う部分に共感した。
 本人が「人の役に立っている」と感じられるものを、見つけないといけないと思った。
- ・地域で支えるしかない・地域差が出ることをすごく感じました。

◆民生委員児童委員等アンケート結果

参加者：29名

回答者数：17名 回答率（58%）

1. 今回の研修のご感想やご意見をお聞かせ下さい。

- ・ 今回の研修会はケアマネジャーの研修会で民生委員としてのかかわり方はどの様にすればいいかわからない。民生委員としては地域での見守りが重要で、介護をしている人は“ほめる”ことだと思う。
 - ・ たいへん参考になりました。
 - ・ 楽しく分かりやすい話でとてもよかった。関西弁で親しみやすかった。
 - ・ 阿部氏の話が生活にそった事例で、理解しやすかった
 - ・ ポイントポイントでたいへん勉強になりました。
 - ・ 初めて研修を受けたが私は民生委員で聞く話が何事も初めてで理解するのに時間がかかりそうです。笑顔、笑顔は良いですね。
 - ・ 今回ケアマネジャーじゃなくて民生委員で出席させて頂きまして地域で皆さんで支え合う事は大切な事。ちょっと解りづらい所もあり、学ぶ所もありました。
 - ・ 認知症の人に対するノウハウがよくわかり勉強になりました。
 - ・ 介護支援分野でも民生委員が行動できる内容がどのような事かわかった。介護支援者に対する理解が深まった。
 - ・ 民生委員の役割で頂いたヒント 居場所づくり、関係機関との連携
 - ・ 分かりやすい内容でした。事例、体験談も交えたもので、身近なことを思い出しながら聞けました。
 - ・ 看取りまでの一環した「本人」主役《クライアント中心》の支援のあり方に共感しました。頭の中で考えていてもいざ実践に移すとなるといろいろと二の足を踏んでしまっ…
- 「笑顔」心がけていてもやっぱり…でも本当に気を取り直して「笑顔」で臨むと今まで問題解決できなかった事が解決出来たという実感があります。「笑顔」忘れないようにしたいです。
- ・ 認知症の方との接し方や話し方等学べた。話しかけ方、褒め方、生きがいを見つけるとか、学んだと思います。
 - ・ この研修会で地域を巻き込んで取り組んでいく方向に進んでいく事がわかりました。地元しか知り得ない情報を活用していく事が民生委員の役割と認識しました。理想的な事だけど理解したいと思った。
 - ・ 分かりやすい言葉で楽しくご説明頂きありがとうございました。大切な事を短時間でたくさん教えて頂いた気がします。
 - ・ 「笑顔でGo—」モットーに頑張ります。良いお話ありがとうございました。
 - ・ 良いお話を聞きありがとうございました。笑顔で接したいと思います。

2. 全体的なご感想やご意見をお聞かせ下さい。(時間帯・場所など何でも結構です。)

- ・ 地域包括について全体像がよくわかりました。
- ・ 包括支援センター主導の地域ケアシステム会議に出るが非常に参考になった。
- ・ 研修会場、時間帯、場所など適当であると思った。
- ・ 出席者が多く後ろの方は先生の姿が見えにくかった。台の上で話してほしかった。
- ・ パワーポイントの画面が白くボケて見えるので改良してほしい。
- ・ 民生委員としてはスムーズに支援できるが、我親に対してはなかなか素直に出来ない。

将来他の家族でも問題になって来ることではないか？

- 研修は時々実施して頂きたい。とても細かく話して頂きありがたい。
- 協議体を作る場合に老人クラブ、民生委員とボランティアでの活動をしている人と、シルバー人材センター、JA 等の有償の報酬を受ける人の混合した場合問題は生じないか？



4. 鳥栖地区介護支援専門員協議会と 鳥栖三養基薬剤師会合同研修会の報告

鳥栖三養基薬剤師会 会長 平岡 敏郎

鳥栖地区介護支援専門員協議会役員など19名、鳥栖三養基薬剤師会役員など17名で合同研修会を行いました。鳥栖地区介護支援専門員協議会の方々にはお忙しい中のご出席、また積極的なご発言など誠にありがとうございました。お陰様でとてもよい研修会になりました事を深く感謝いたします。

◇日 時：平成29年1月19日（木） 19:30～21:30

◇場 所：サンメッセ鳥栖 3階大会議室2

①介護保険利用者の薬剤管理・援助に関するアンケート調査報告	15分
②グループワーク	20分
③薬剤師居宅療養管理指導業務事例報告 6薬局 6事例	各5分
④グループワーク	20分
⑤発表・まとめ	30分

【薬剤師居宅療養管理指導業務事例報告発表者】

- | | | | |
|--------------|------|------------|------|
| 1) メロディ薬局 | 三橋博子 | 2) 一光堂漢方薬局 | 徳渕昭代 |
| 3) 鳥栖三養基会営薬局 | 宮地和子 | 4) わたや薬局 | 松雪良子 |
| 5) 東町わたや薬局 | 西依恭平 | 6) こぐま薬局 | 坂上光広 |

【合同研修会アンケート結果】

- 職種 介護支援専門員 20名（アンケート回収20名分）
薬剤師 17名（アンケート回収14名分）
- 研修会の感想

介護支援専門員	
感想	人数
良かった	20
ふつう	0
あまり良くなかった	0

薬剤師	
感想	人数
良かった	14
ふつう	0
あまり良くなかった	0

3. 研修会の感想（記述）

【ケアマネジャー】

- ・問題を解決するための業務内容で、薬剤師さんの工夫などが分かってよかった。
- ・薬剤師がケアマネとの連携を望まれていることがよく分かった。
- ・薬剤師にこんなに支援に協力していただけるのだと感じた。事例の発表が良かった。
- ・薬局の関わり方を知ることができ良かった。顔の見える関係の必要性をつくづく感じた。
- ・アンケート結果に基づき、その内容を深く掘り下げ、いろいろな意見を聞いて良かった。症例がとても参考になった。
- ・症例を聞き、どの事例も薬剤師の方が薬のことだけでなく、患者さんの生活にまで関わり、アセスメントされていることに感心した。
- ・薬剤師と会い、業務内容、特に在宅についての思い、考えを知ることができた。今後、相談をする時の壁が低くなった。
- ・薬剤師の取り組みを聞くことができた。ソーシャルワーカー等の参加があれば違った話も加えられたかもしれない。
- ・薬剤師も患者さんにこんなに関わっているんだと思い、うれしい気持ちになった。
- ・垣根が低くなり、薬剤師が近い関係に感じた。いろいろなところで新たな知見や盗める工夫など得られた。白衣を着ていない薬剤師は親しみがわく。
- ・現場で起きている薬の問題が分かり、勉強になった。

【薬剤師】

- ・ケアマネジャーの悩み、現場の声が聞いて良かった。
- ・ケアマネジャーとの距離が近くなった。
- ・ケアマネジャーと顔を合わせる機会が少ないので貴重な機会になった。一つの事例について薬剤師、ケアマネジャー両方の立場から話し合えたので新たな発見が多かった。
- ・ケアマネジャーから薬局に相談しに行ってもいいのかというお話があり、薬局からも積極的に連絡しやすい雰囲気になった。
- ・ケアマネジャーの視点が聞けた。介護保険の点数の話も聞けた。

4. 訪問業務のケース報告で特に印象に残ったケースをお書きください。

- ・忙しい中、薬剤師が患者さん、利用者さんのことを考えて専門として対応されていることを強く感じた。
- ・どの症例も対象者の事をしっかり考えて支援していることがよく分かった。
- ・一人の患者さんに対して薬剤師が多く時間関わってくれることもあるということを知ることができた。
- ・家族との関係を含めて生活の中に入って活動していたことが素晴らしいと思った。

【症例①】薬剤師はケアマネとの関わりを大切にしたいという思いを強く感じ、うれしかった。

【症例②】夜中や利用者が倒れた際にも訪問され、とても大変だと思った。大変だったと思うが、特養に入られて残念だと言われたところがステキだった。

- ・どのケースも印象に残ったが、多科受診の対応や一光堂の徳淵先生の話が印象的だった。

【症例③】退院時カンファレンスからの支援が印象に残った。ケアマネジャーへのお願いという内容で、薬剤師への関わりを積極的にお願いしてよいのだと心強く感じた。

【症例④】まとめの部分で「医療や生活上の問題を他職種と共に～患者さんの生活を支援したい」という文章に感激した。同じ目線の支援者という連帯感、親近感を感じた。残

薬の整理が印象に残った。

【症例⑤】 その方にあった服薬管理方法をされており、勉強になった。

【症例⑥】 お薬の溶かしやすいものとそうでないものがあると分かり、勉強になった。
胃瘻患者への薬剤投与が役に立った。

5. グループワークで参考になった内容をお書きください。

【ケアマネジャー】

- ・ 薬剤師が在宅訪問される際に間にケアマネジャーが入ることですまく関わりができていくことを痛感した。
- ・ 薬剤師と接することがこれまでほとんどなかったので、薬剤師の考え方が理解できた。
- ・ 薬剤師が優しくて、これから気軽に相談していいんだと感じた。
- ・ サービス担当者会議にも薬剤師に声掛けをしていいと聞き、心強く感じた。
- ・ 患者向け、介護事業所向けの個別の対応を薬局で行っていることを知った。
- ・ 薬剤師との関係が密になり、在宅チームなんだと感ずることができた。
- ・ 情報交換などを行い、各専門職がそれぞれの立場で利用者を支えていくということが分かった。
- ・ 薬のことはやはり薬剤師に聞いたほうが分かりやすいと思った。薬剤師との今後の関わり方で在宅介護が変わってくると感ずた。

【薬剤師】

- ・ ケアマネジャーの立場からの意見、見方が少し分かった。
- ・ ケアマネジャーとの話がスムーズにでき、イメージが変わった。
- ・ ケアマネジャーが薬局に顔を出してくださることの大切さを再確認した。
- ・ サービス担当者会議に薬剤師さんと呼んでいいですかと聞かれたので、行ける行けないに関わらず、声をかけてほしいと答えた。顔が見える関係を作っていくだけで在宅業務が進んでいくように感ずる。
- ・ ケアマネジャーから薬剤師にお願いしたいことが分かった。例えば薬のことで医師との連携を密に取ってほしい、副作用のモニタリングなど。

6. 今回の研修会で出てきた新たな問題、検討事項があれば教えてください。

- ・ 薬剤師の活動のケアマネジャーや地域への広報。
- ・ 薬の知識不足を感ずた。ケアマネジャーも積極的に関わる姿勢を持っていこうと思う
- ・ このような場を今後も設けて頂きたいが、参加するケアマネジャーを今後、どのように増やしていくか。
- ・ 在宅をしていない薬剤師からもケアマネジャーに連絡を取る機会を増やすべきだと思つた。
- ・ 医療ソーシャルワーカーとの連携、退院時カンファレンスへの参加。

7. 薬剤師、またはケアマネへの要望があればお書きください。

【介護支援専門員から薬剤師へ要望】

- ・ 薬剤師さんが身近な存在に感ずられるということはとても心強い。今後もこのような場を設けてほしい。
- ・ 薬、副作用に関してこれからも相談にのってください。
- ・ サービス担当者会議への参加をお願いします。13時頃に調整を行うようにします。

- ・これからもどんどん連携していきたいと思えます。
- ・気になる方がおられたら気軽に電話してください。
- ・処方薬だけでなく、健康食品などの相談などもしたい。



【薬剤師から介護支援専門員への要望】

- ・患者さんに関わる全ての職種の人が情報共有することが大切だと思う。
- ・気軽に薬局に来てくださいね。
- ・門前の医療機関が訪問業務に出ていないため、なかなか訪問の件数が増えないが、やる気はあるのでぜひお話やご相談を頂きたい。
- ・ケアマネジャーと薬剤師が顔の見える関係になれるよう、今後も交流、勉強会をしていきたいと思います。宜しくお願いします。

【グループワーク②のまとめ】

テーマ：介護家族やサービス事業者の薬の理解を高めるための工夫？

- ・居宅療養管理指導を算定している薬局は、できるだけサービス担当者会議に参加するようにする。(13時頃の会議はとても助かります。)
- ・薬剤師より薬について気軽に相談して下さいと度々声をかける。(ケアマネジャーさんからも利用者の方に伝えてほしい)
- ・ケアマネジャーさんも気軽に相談して下さい。

テーマ：残薬があっても介入が困難な場合の対応？

- ・勝手に服用を中止している事が有る。Drには服用していると言っている。
- ・残薬をDrに訴えても又処方されている事が有る。→残薬、現物をそのまま医院に持って行った方が良い。
- ・残薬の意味を理解していない人が多い。
- ・服用回数を本人のリズムに合わせた方が良い。
- ・認知が進むと服用を忘れる事に対する恐怖が芽生えてしまう場合がある。
- ・残薬の回収の際にお薬代金の事を言うのも有りだが健康被害を心配する言い方も良い。
- ・情報源が多く影響を受けている人が多い。

テーマ：服薬管理方法のいろいろ？

- ・個々の能力によって残薬が出る理由が違う→アセスメントして原因を考える必要がある
 - ・袋を開けれないから飲めないのか、一包化したら飲めるようになるのか。
 - ・飲み忘れる方に一包化して改善したケースがあった。
 - ・能力によって飲めない理由がちがうので薬局から依頼することもある。剤形変更、用法変更
 - ・認知症の患者が3軒の病院に通院のケース、娘が管理、飲み間違いがあるのでどうしたらいいか？
- 薬局を1つにまとめる→カレンダー作成(曜日が分かってない人の場合日めくり薬カレンダー有効)
- 医薬品メーカーが自動で薬が出てくる機械を作成中。

テーマ：いつの間にか薬剤師のサービスが始まっておりケアマネの報告が後回しになっている

- ・ケアマネへの報告なしに居宅療養指導が始まっているケースは施設に限らず多い。実例として、ターミナルの患者で、医師と薬剤師の間で話が進み、報告なしに居宅療養指導がとられていた。

- ・有料施設ではDrと薬局で居宅の契約の流れが出来ていて、患者、家族の同意なくケアマネのプランが入る前に施設の方針で居宅が開始される場合が多い。
- ・居宅療養指導の事前の報告、実績報告等がほとんどない薬局がある。
- ・ケアマネジャーによるケアプランへの居宅療養指導の組み入れを知らない薬剤師もいる？

まとめ

- ・在宅の開始にあつては、担当ケアマネと必ず連絡・協議しケアプランに入れてもらう。
- ・ケアマネとの連絡は介護保険証を見ていただければ、薬局への連絡は、まずかかりつけ薬局へ相談。訪問薬局が分らない場合は薬剤師会へ相談。
- ・報告は遅くならないように指導、緊急時は電話での連絡を行い情報の共有に心がける。
- ・今後も研修会等で周知徹底をはかる。

テーマ：ヘルパーさん、訪問看護師さんと薬剤師の訪問業務の違いと、連携？

- ・薬剤師は、薬剤のモニタリングができる。
- ・ヘルパーは薬のセットができる、服薬確認や残薬確認などができる。
- ・訪問看護師→薬のセット、飲み方の説明などができる。
- ・薬の変更時に本人の状況を共有できるようにする。

テーマ：多科受診、ポリファーマシーの対応

- ・ケアマネジャー：他科受診で残薬など問題があってもどこにどう相談して良いかわからない。



薬局を1つにまとめると相談しやすくなる。

複数の薬局がある場合は1つの薬局に相談→薬局間で連絡する。

- ・薬剤師 ケアマネジャーからの相談で介入した事例有→ケアマネジャーが薬局に足を運ぶ機会を増やす。
- ・薬局窓口で薬について困っていることがないか声掛けを行い、きっかけをつくる。
- ・患者さんが複数の薬局からのたくさんの薬の相談に行くと？→薬局間で調整。

【全体のまとめ】

今回の研修会は平成28年8月に鳥栖地区介護支援専門員の会員さんに対して行った「利用者の薬剤管理・援助に関するアンケート調査」結果より出てきた問題について及び鳥栖三養基地区で薬剤師居宅療養管理指導業務を行っている中の6薬局に薬剤師の訪問業務のケース発表についてのグループワークを行いました。

6例の多様な業務発表により今まで薬局や薬剤師の訪問業務に接する機会の多くなかったケアマネジャーさんも薬剤師の訪問業務や業務関わる視点などについて一定の理解が得られたと思われます。またケース発表後にグループワークを行う事で薬剤師も訪問業務だけでなく外来患者さんの薬剤についてもケアマネジャーとの情報共有や連携を図ることの大切さを感じたと思われます。

また「利用者の抱える薬剤管理・援助に関するアンケート調査結果」より出てきた問題をグループワークの中で共に検討することで、医療と介護の連携が必要な薬剤の管理や援助、モニタリングなどがよりスムーズになることも理解できたと思われます。

希望も多かったように、今後もこのような企画を定期的に行っていきたいと思ひます。

鳥栖三養基地区で療養中の方の薬物療法がより有効で安全に行われ、できる限り元気に自立した生活を送れるよう今後とも業務連携をお願いいたします。

5. 地域包括支援センターより

「平成28年度鳥栖地区介護支援専門員アンケート集計結果報告」

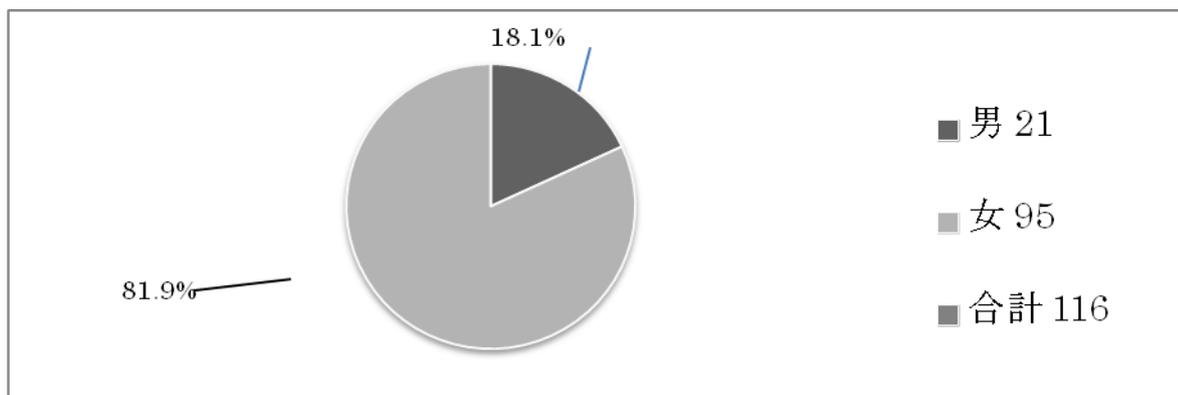
この度アンケート調査にご協力頂き誠にありがとうございました。

鳥栖地区の介護支援専門員 116 名の方に報告いただきました。

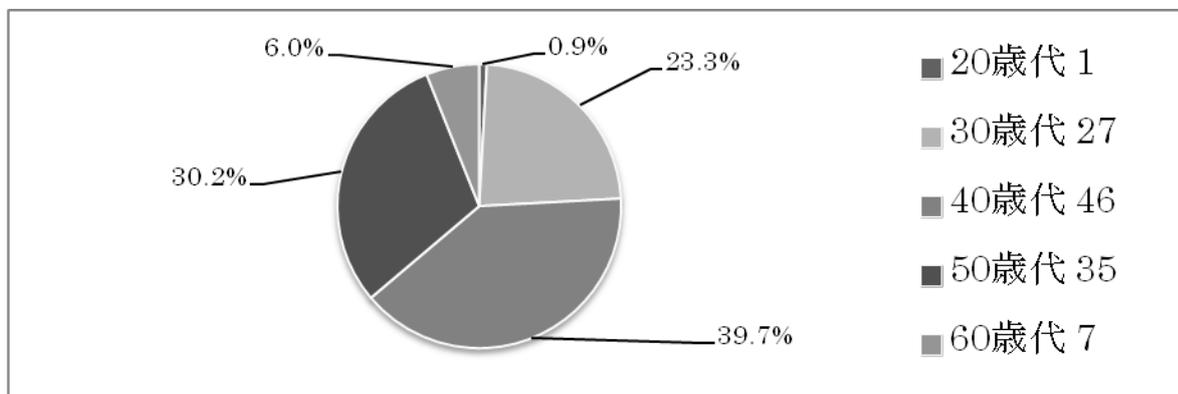
今回のアンケート集計、まとめまでは至っておりませんが、勤務状況、皆さまが抱えている業務の問題点の理解や共有の資料としてご確認ください。

今後今回のアンケート結果をまとめ、より有効な活動や研修また地域や多職種との連携を進めるための資料にさせていただきます。

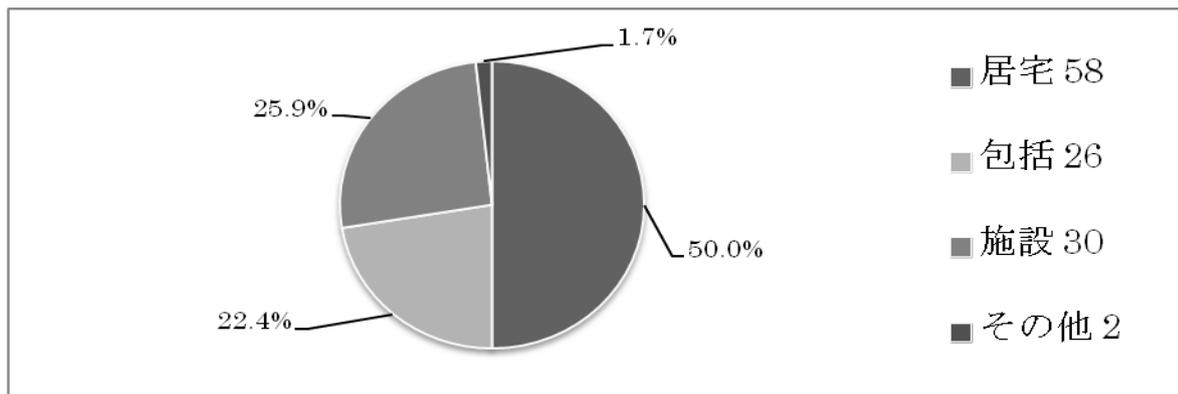
1. 性別



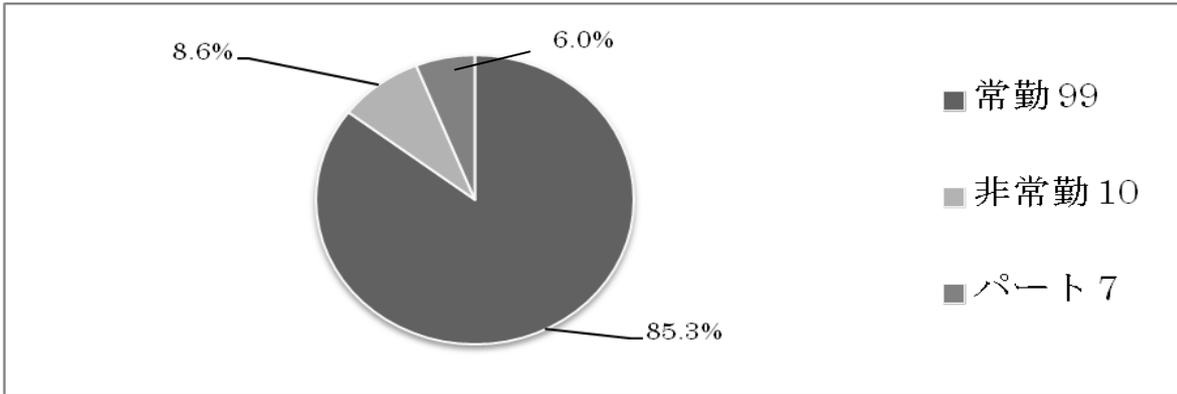
2. 年齢



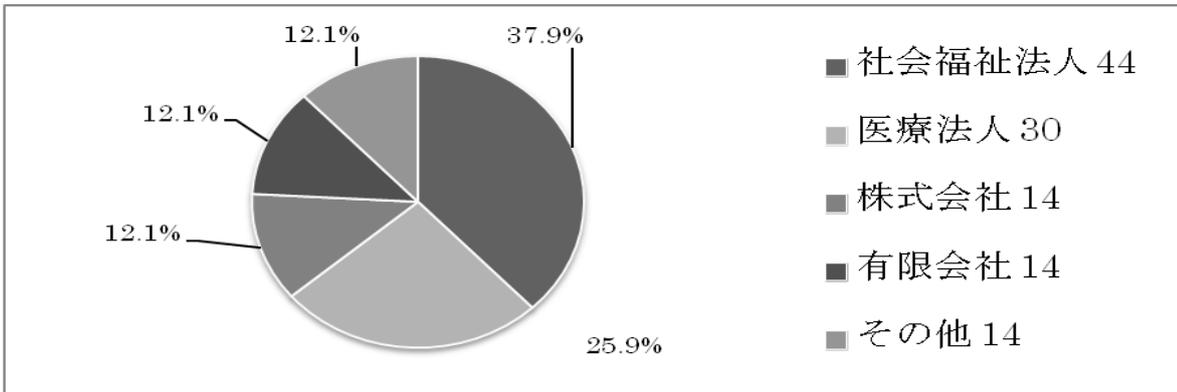
3. 所属



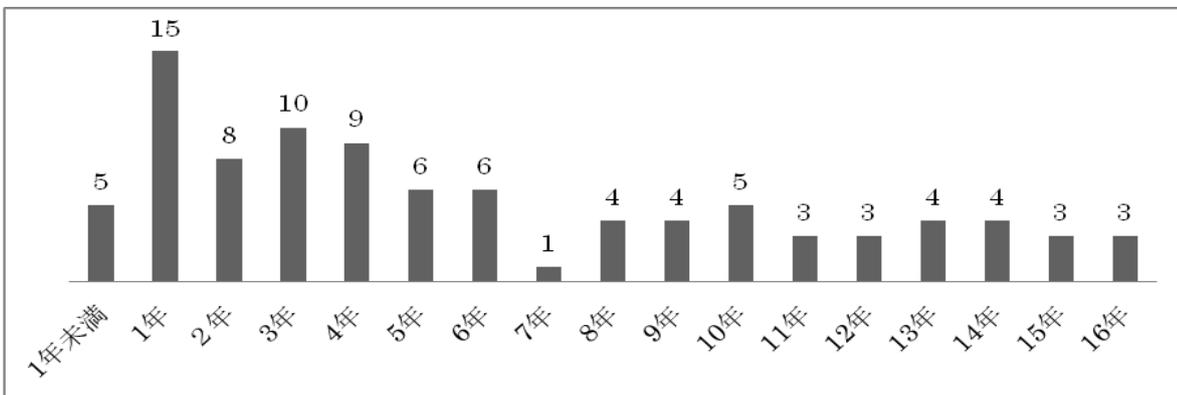
4. 勤務形態



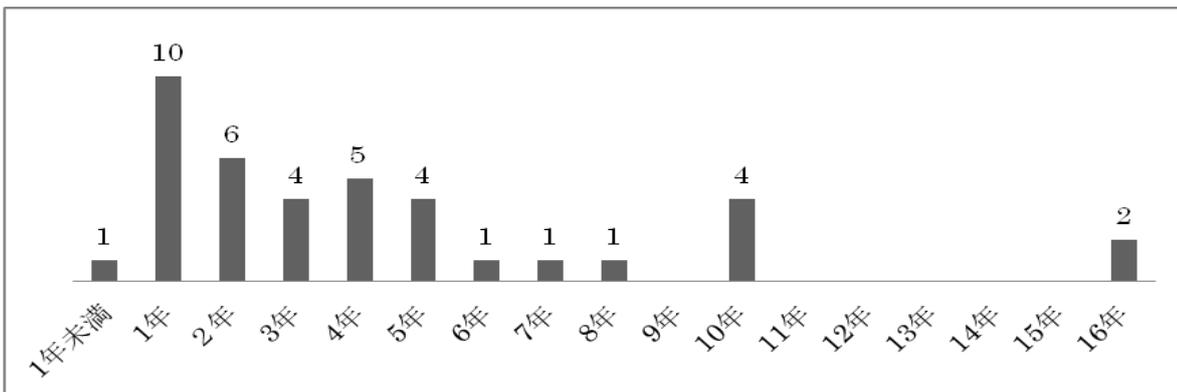
5. 経営母体



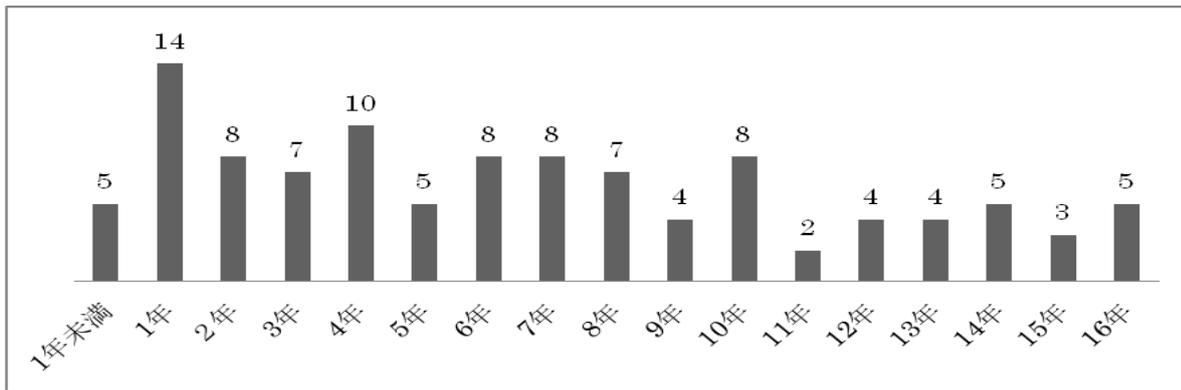
6. 経験年数



・居宅ケアマネ+施設ケアマネ経験から居宅ケアマネ経験年数を抽出



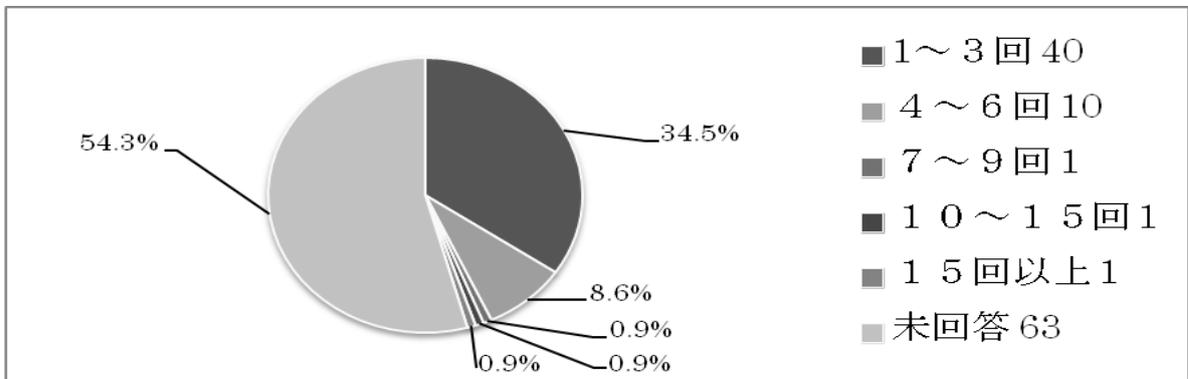
・居宅ケアマネ+施設ケアマネ経験から施設ケアマネ経験年数を抽出



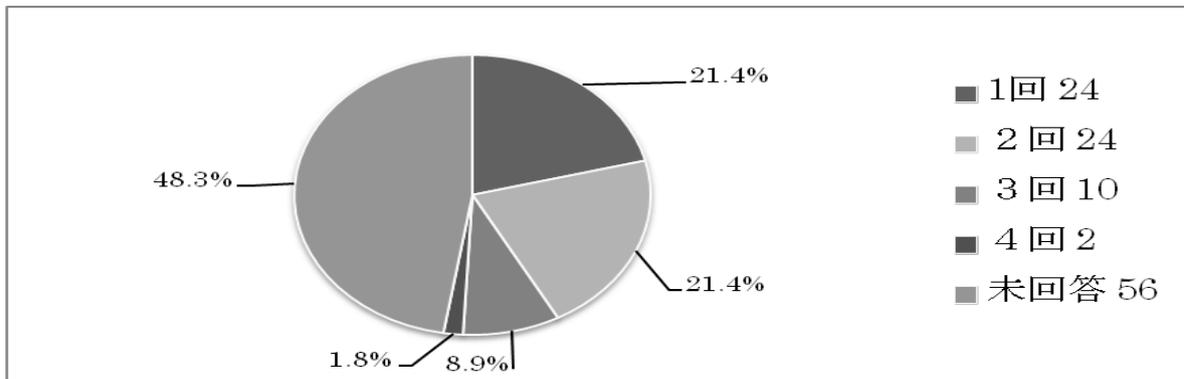
・居宅・施設問わず、ケアマネ経験年数を抽出

7. 研修参加状況

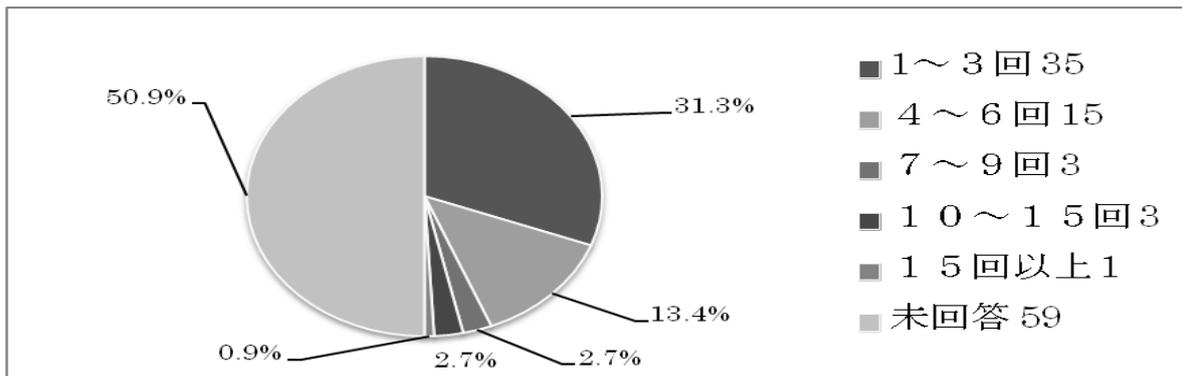
・介護職員基礎研修



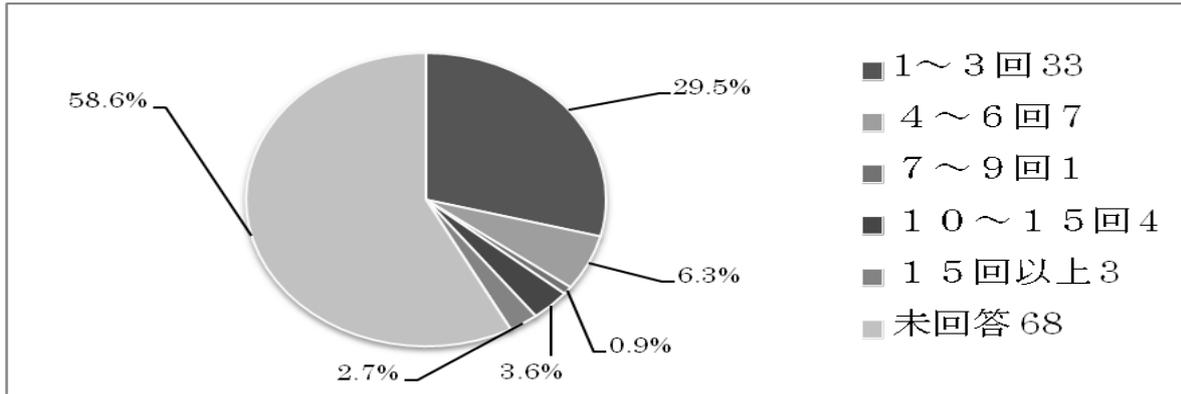
・鳥栖地区介護支援専門員協議会 (平成27年度)



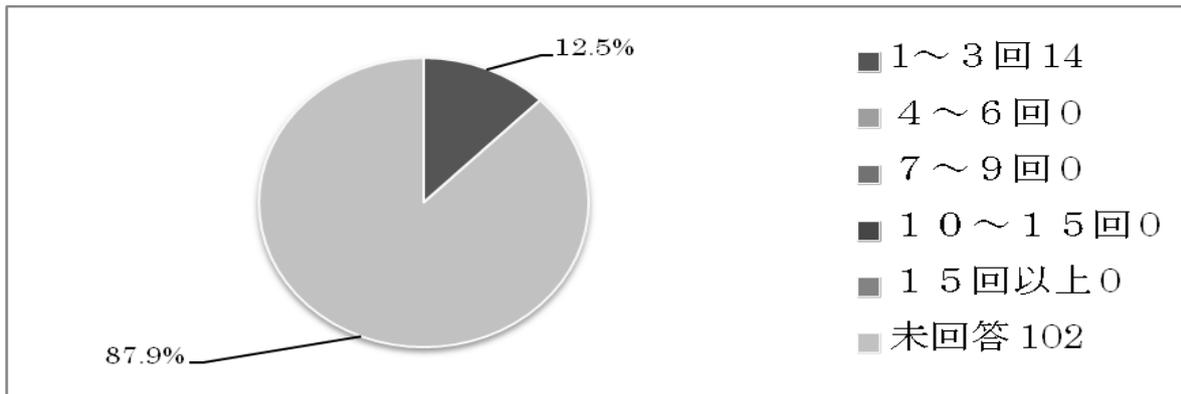
・地域(包括開催研修含む)



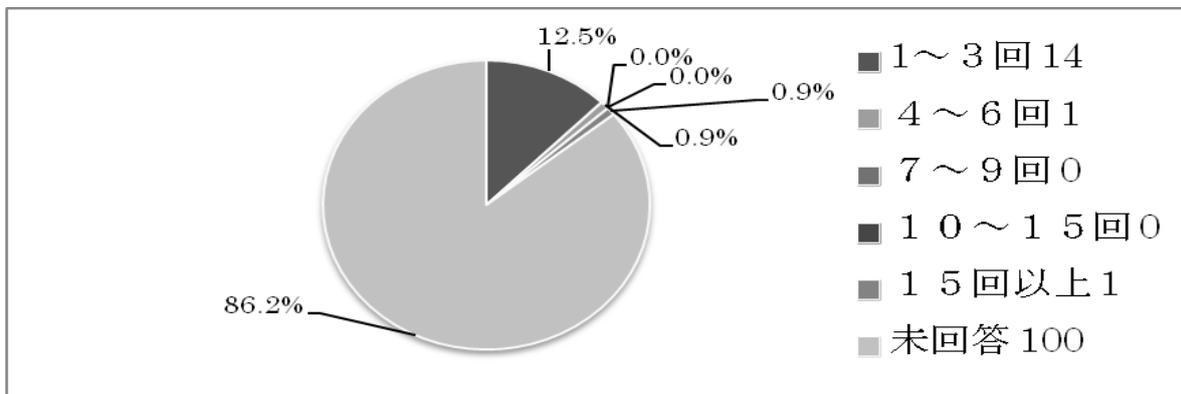
・ 県内研修



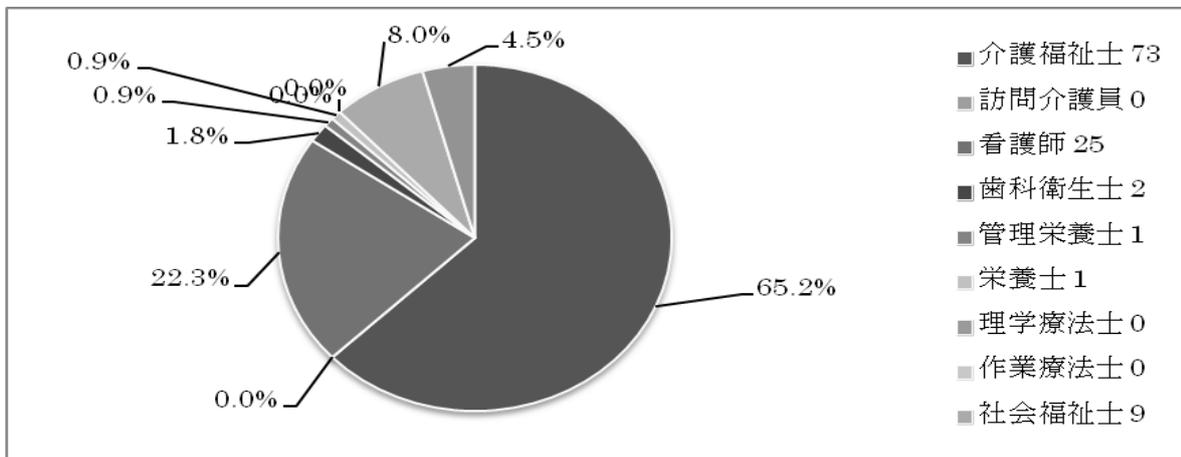
・ 県外研修



・ 学会（その他）

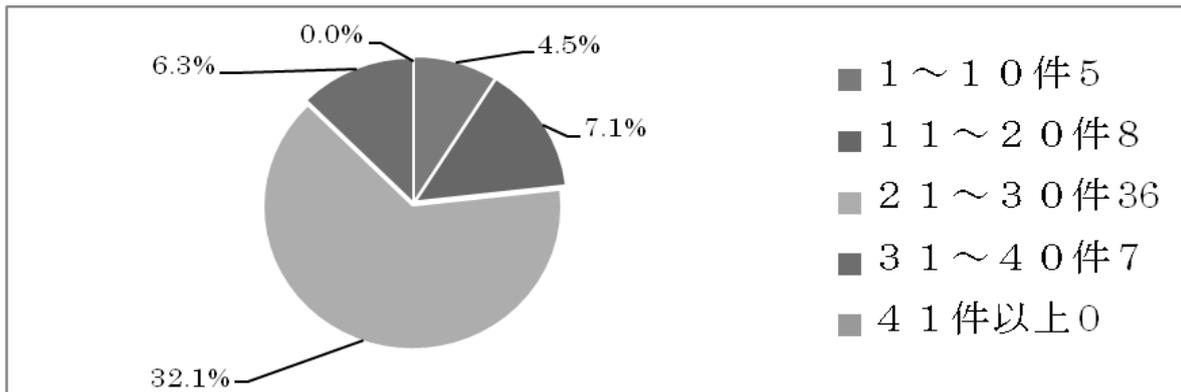


8. 基礎資格

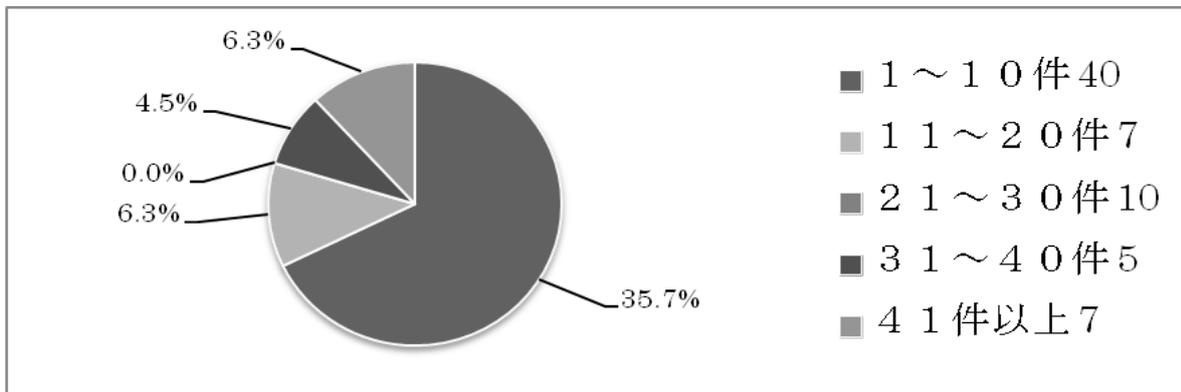


9. 担当件数

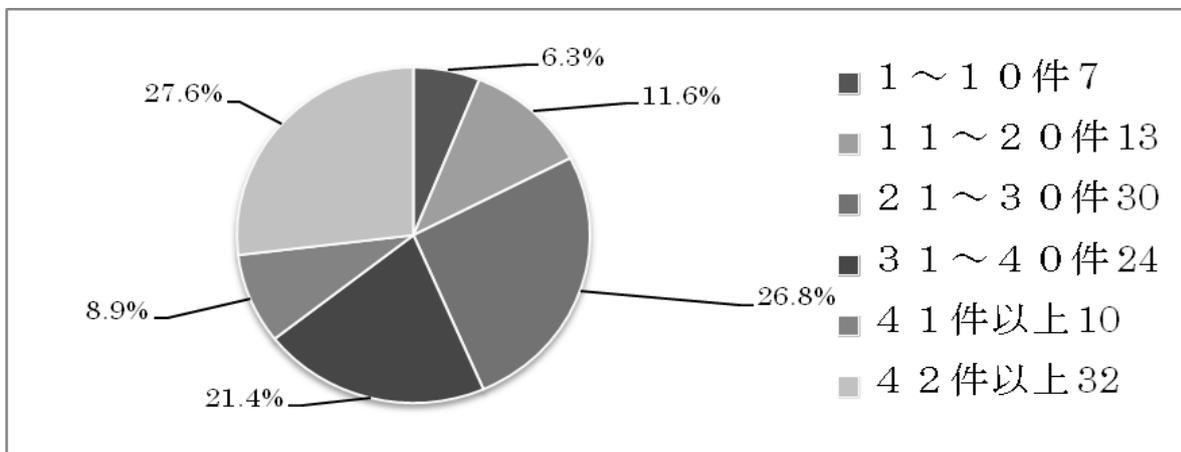
要介護



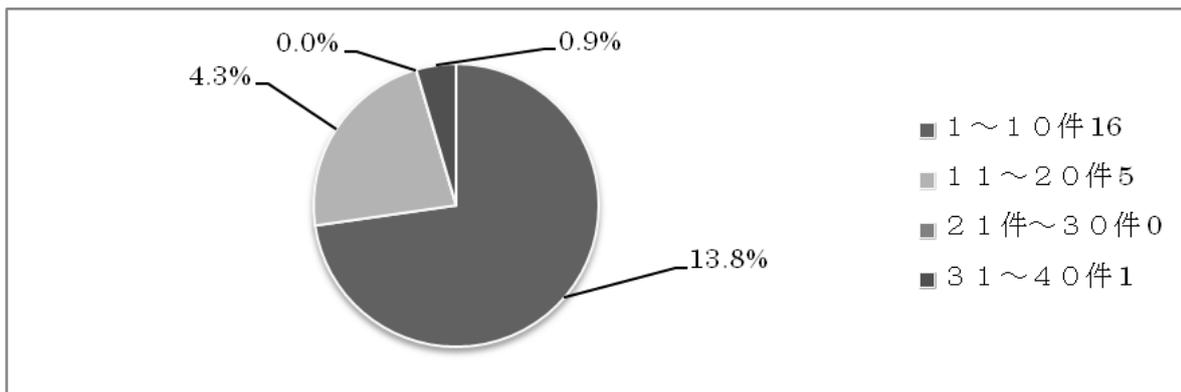
要支援



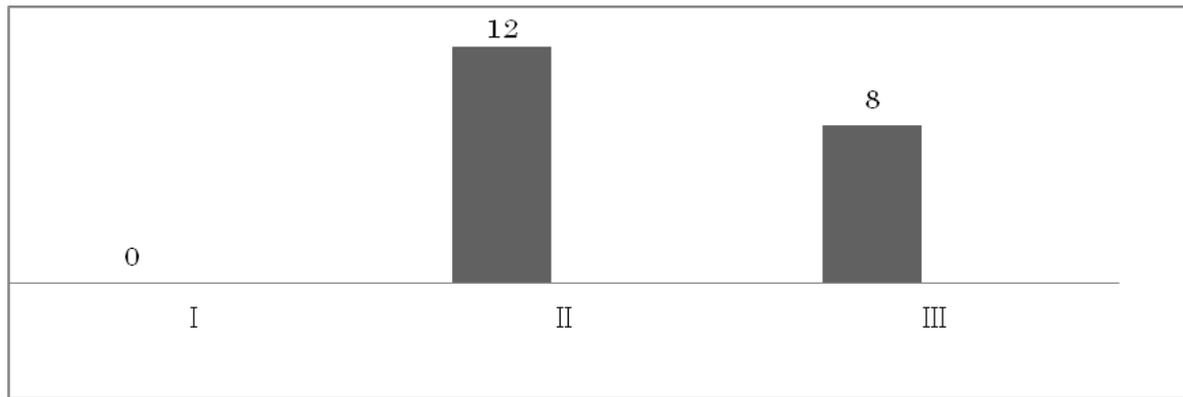
要支援+要介護



施設担当件数

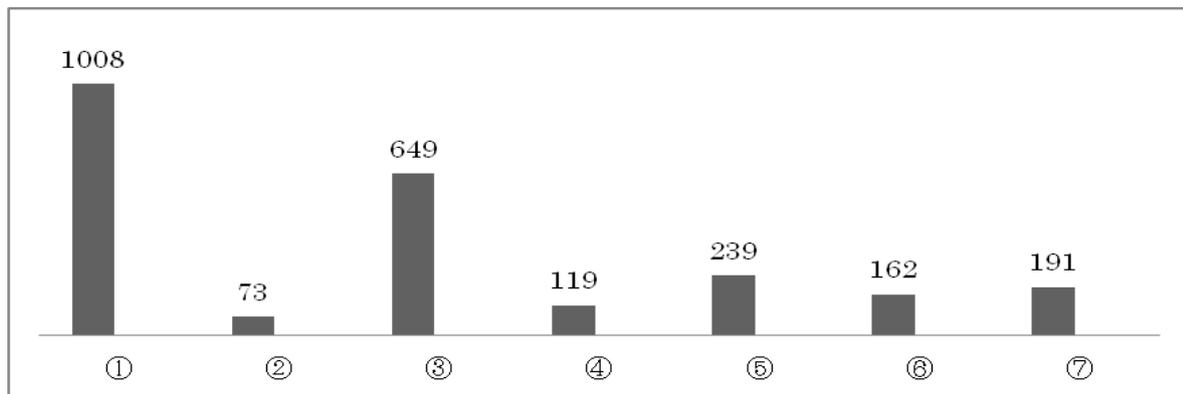


10. 特定事業所加算

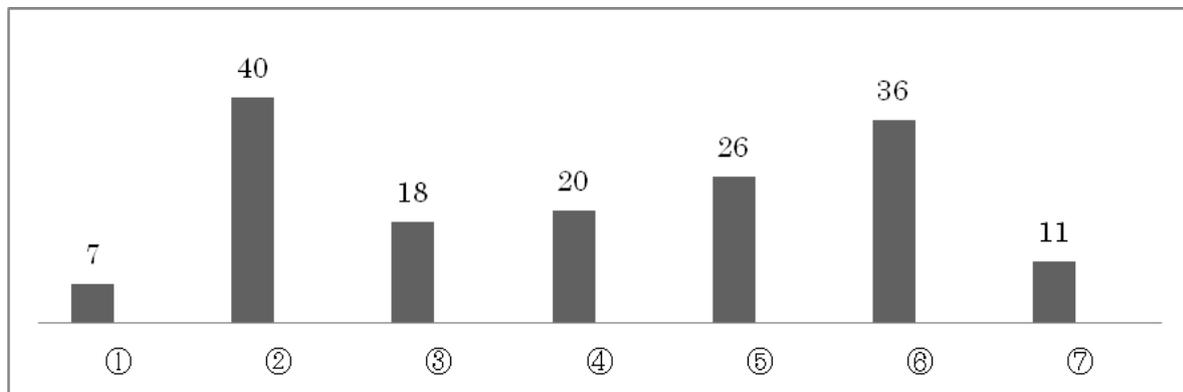


11. ケース分類

- ①リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例
- ②看取りにおける看護サービスの活用に関する事例
- ③認知症に関する事例
- ④入退院時における医療との連携に関する事例
- ⑤家族への支援の視点が必要な事例
- ⑥社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例
- ⑦状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス)等の活用に関する事例



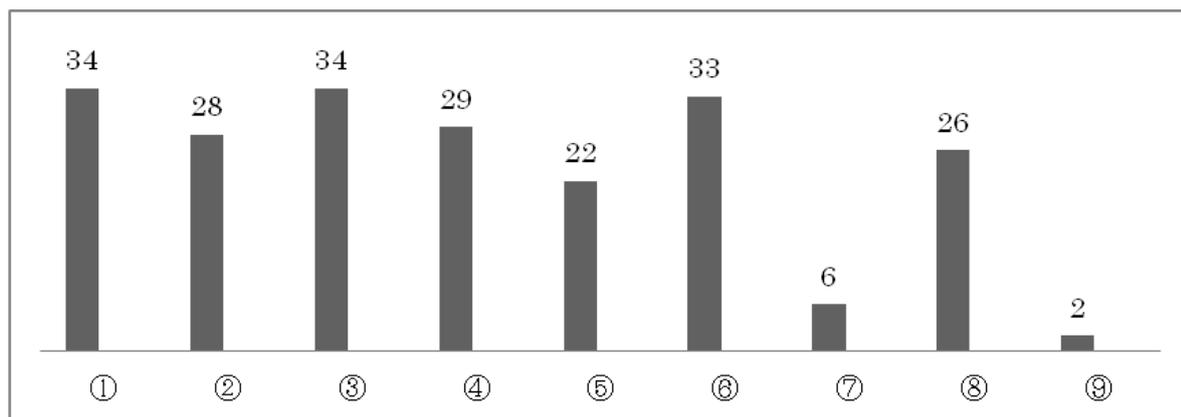
・ ケース分類の中で苦手と感じる事例



12. 調整困難と感じる事例

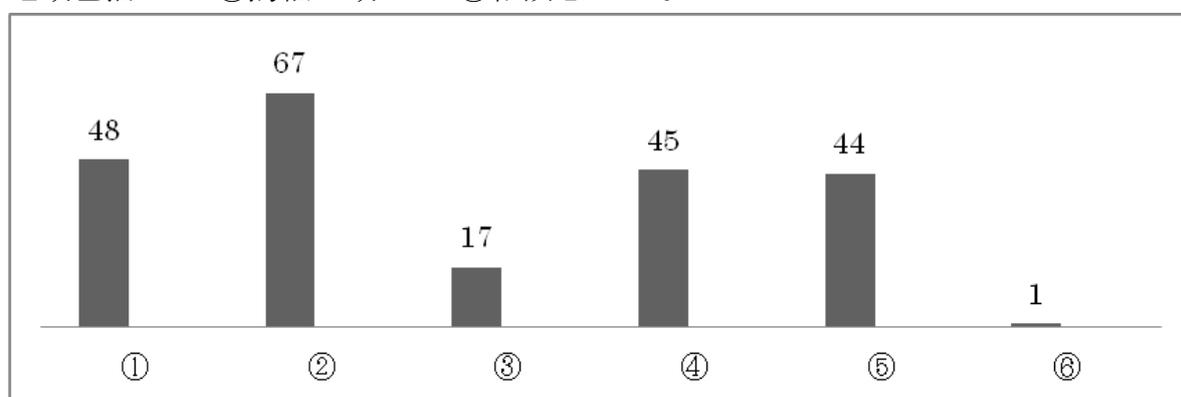
- ①医療連携
- ②社会資源把握
- ③障害者等介護以外の福祉
- ④地域連携(民生委員・区長等)
- ⑤家族支援
- ⑥困難事例

⑦職場環境 ⑧ターミナル(看取り) ⑨その他



1 3. 相談先

①同事業所の主任 CM ②同事業所の CM ③他事業所の CM
 ④地域包括 ⑤鳥栖広域 ⑥相談窓口がない



1 4. 苦手に感じる分類と理由(主な意見を抜粋)

①リハビリテーション及び福祉用具活用に関する事例

- ・リハビリテーションに関わる知識が不足している。
- ・福祉用具は自分で考えず、専門員にまる投げして頼りすぎてしまう。
- ・専門外の為に適切なアドバイス、知識が薄く、上手く助言等が難しい。

②看取りにおける看護サービスの活用に関する事例

- ・医療的な知識不足。状態悪化のスピードが速く要支援では早急な対応が困難。
- ・担当した事がなく、医学的な知識もないので対応が難しいと感じる。
- ・事例によって進行状態が様々で先をよんだ対応や計画がしにくい。
- ・看取りは精神的に重く、医療との連携が取りやすくなってきているが、取りにくい場合は消極的になってしまう。

③認知症に関する事例

- ・初期認知症だと診断されている人。診断は受けていないが疑いがある人の対応や、その家族の対応が難しく感じる時がある。
- ・専門医受診までのアプローチが難しい。
- ・本人、家族の疾患への理解を得ることが難しい為。

- ・認知症の方には、その方の意向や気持よりも介護者側寄りのサービスになってしまいがち。

④入退院時における医療との連携に関する事例

- ・退院までに認定が無く暫定プランで対応するケースや退院時の情報が得られないまま、緊急的にサービスを要し、自宅でのアセスメントが不十分なまま担当者会議を行うケースがある。
- ・病院によって連携の仕方が違うため、迷うことがある。
- ・男性介護者の家族等、生活面での考え方が違う。男性でも行う必要性があること等に上手く理解が得られない事が多かった。

⑤家族への支援の視点が必要な事例

- ・ご家族の虐待ケース、認知症があり、判断力、理解力の低下により家族間のコミュニケーションがとりにくい、または家族に問題がある場合、調整しにくいときがある。
- ・精神系の事例になると、本人との関係性を構築するのに時間を要し、サービスにつなげる事もスムーズに行かず、キーパーソンの方も色んな面で疲れが生じ、総合的に色々な情報認識が必要となる為。

⑥社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例

- ・地域における社会資源の把握ができていない、うまく活用できない。
- ・社会資源があるか勉強不足で、それをプランにどう活用すればいいか解らない。
- ・社会資源の情報が少なく、どこに繋げばいいか……。自分自身も苦手意識がある。福祉サービスの情報も少ない。

「その他意見」

- ・それぞれの事例が複雑に混在しているケースもあり、7つの分類に振り分ける事が難しい。
- ・基礎資格が福祉系の為、医療知識が少ない。住宅型の有料老人ホームで、通所介護を利用している場合、有料老人ホームでの生活で、ヘルパーや訪問看護の導入が難しい。

1 5. 調整するときに困難と感じる項目と理由(主な意見を抜粋)

(医療連携)

- ・医療度が上がってきて様々な病気を持っている方が多い。
- ・主治医との連携や面談の時間調整。
- ・退院時の調整、医療との連絡の行き違い、一同にカンファレンスを行う事がベストと思うが、できない事が多い。

(社会資源把握)

- ・地域の実情やサービスなど十分に把握できていない。
- ・施設でのサービス提供が主な為、どんな社会資源があるか把握できていない部分が多く、活用があまり出来ていない。
- ・はっきりとした窓口がないと感じる。

(障害者等の介護以外の福祉)

- ・ 障害福祉サービスの知識が不十分。
- ・ 障害福祉の知識が浅く悩む。また、家族の方が障害等を持っている時の担当者との連携。
- ・ 障害の授産施設などの情報が得にくい。福祉タクシー等はケースによって利用する機会があるけど・・・。

(地域連携 民生委員・区長等)

- ・ 民生委員や区長が地域住民に対してどこまで関わってくださるのかわからず、連携が取りづらい。
- ・ 民生委員さんとの連携をどのタイミングでどこまで図るのがいいか調整が難しいと感じる時がある。
- ・ 個人情報に関係もあり地域との連携がとりにくい。

(家族支援)

- ・ 家族関係が希薄になっている為か、同居していても関係を持とうとされなかったり、支援者が不在のケースが多くみられる。
- ・ 面会が少ない家族等で、TELでのやりとりになるが、十分に伝達、報告できない事がある。
- ・ 介護力が低い家族への支援が難しい。

(職場環境)

- ・ 職員の定着・確保が難しい。

(ターミナル・看取り)

- ・ ターミナルのケースも少ない為、未知の部分が多い。
- ・ 家族支援、看取りの時期のゆれ、医師と家族の関係で悩む。
- ・ ターミナル診断あるが、要支援の認定結果が出ている。又は、出た方。サービス導入調整時、区分変更が必要になるので、居宅との調整、プランの調整で、一時期かかりっきりとなり、他業務が滞る。

(その他意見)

- ・ 兼務のため、時間配分。
- ・ 未経験な分野に対して解らない事が多くスムーズにいかない。
- ・ 何をやるにも勇気と努力が必要で、私にとっては困難です。



鳥栖広域管内 地域包括支援センター
主任介護支援専門員職種会による
アンケート調査

ちよつとひとこと

日に日に、春の風が快い季節となりつつありますが、皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

もうすぐ、桜の花見の季節を迎える事で、楽しみにされている方も多いのでは・・・

私の知人に、カラー診断をする方がいます。その方が、『人は毎年咲きたいと思っているけれど、毎年は咲けないんですよ。』と言っていました。

人にはそれぞれ

種をまく年

芽を出す年

葉が増える年

花が咲く年

実がなる年

収穫する年

畑を休める年

があり、この流れが10年スパンでやってくるそうです。



花が咲いたら、必ずいつかは畑を休ませる時期が来るから
小さな小さな花でも、ちゃんと咲かせることができるよう、
日々の小さな出来事でも前向きに取り組んでいきたいなあと思っています。

★ 協議会への入会申込・変更届・退会届について

当協議会ホームページ「鳥栖地区介護関連協議会」の2015.6.26の記事に各種様式を掲載しております。勤務先が変更になられた際もお忘れなく、事務局までお届け願います

鳥栖地区広域市町村圏組合介護保険課 <http://www.kttnet.co.jp/tosukaigo>

佐賀県介護保険事業連合会 <http://www.sagadensan.net/skr/>

佐賀県介護サービス情報公開システム <http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do>

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>

WAMNET <http://www.wam.go.jp>

鳥栖地区介護支援専門員協議会 <http://www.tosukaigo.com/>

会報 編集委員 永松丈幸 木下里美 松雪 幹一 鳥栖地区広域市町村圏組合

発行責任者 梅木 康一

発行 鳥栖地区介護支援専門員協議会

事務局 東町わたや薬局